

# 椎の苗木通信



夢・力・花いっぱい

木城町立木城中学校

Phone 0983-32-2028

Fax 0983-32-4191

木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

(木城町教育大綱の基本理念)

## 職☆業☆講☆話

キャリア教育の一環として、職業講話を1月23日(月)に実施しました。この講話は1年生を対象とし、4名の講師に説明していただきました。

公務員としての立場から教育課の河野さん、保育士としての立場から稗島さん、パティシエとしての立場から湖間戸さん、自動車整備士としての立場から神田さんがそれぞれ講話をしていただきました。

生徒は4つの教室にそれぞれ分かれて、2つの講話を選択して聴講していました。それぞれの講話で共通することは、中学生の勉強は、世の中で仕事をしていく上でとても重要であるということ、接客をしていく中で、挨拶が大切であるということです。また、仕事をしていく中で、失敗もあるが、恐れずに仕事を続けることは大事であることも話されました。



## 県女子駅伝競走大会

1月29日(日)、日南市で第34回県女子駅伝競走大会があり、本校の陸上部の生徒が出場しました。この大会は、日南総合運動公園陸上競技場を発着点とする6区間21.0975kmを競う大会でした。本校の中学生は3チームに分かれて出場しましたが、その中で「児湯郡A」は24チーム中8位で、記録は1時間20分29秒でした。児湯郡Aチームのメンバーとして本校から出場したのは、3年生の牧草さん、吉田さん、白坂さんです。

4区間(2.9km)を走った白坂さんは、11.32秒の好成績で「未来くん賞」を受賞しました。おめでとうございます。[白坂楓夏さんのひとこと]

『粘ることができた』

出場3回目で初めての受賞なのでうれしい。序盤からスピードに乗れ、最後の1kmで粘って順位を一つ上げることができた。

【宮日新聞 1/30/2017の記事から】

## 立志式

2月10日(金)午後1:40～午後3:40、本校の体育館で立志式が行われました。

木城町教育委員会をはじめ、学校関係者評価委員の来賓を迎え、2年生を対象として開催しました。この立志式では、生徒が日常の生活を見直し、一層明確な進路の希望や計画をもたせるため、キャリア教育の一環として実施するものです。2年

生全員が色紙に表した漢字一文字について自分の  
立志の決意を述べました。生徒が決意した文字は  
次のとおりです。

「突」「恩」「頑」「全」「強」「伝」「超」「考」「挑」  
「伸」「鎮」「立」「越」「続」「今」「信」「貫」「摺」  
「努」「発」「守」「動」「笑」「幸」「思」「心」「前」  
「決」「気」

続いて、記念講演が行われました。講師は松本  
英揮様でした。講演では、これまでの松本様の生  
活体験についてお話をいただきました。エネ  
ルギーには限界があり、これからの世の中では  
sustainable な社会、つまり持続可能な社会が重  
要であることを強調されました。生徒たちは熱心  
にお話に関心していました。



### 東児湯中学校数学計算力結果

昨年 12 月 12 日(火)に第 7 回東児湯計算技能  
調査が全学年で実施されました。

各学年の平均点は、1 年生 91.4 点、2 年生 89.3  
点、3 年生 78.6 点でした。東児湯地区の平均は、  
1 年 80.9 点、2 年 81.8 点、3 年 77.6 点と各学  
年とも地区平均を上回りました。

これからも計算の仕方をしっかり身に付け、計  
算力を向上させてもらいたいと思います。

### 校長 雑感

#### 天災は忘れた頃にやってくる

3 月になると東日本大震災(東北地方太平洋  
沖地震、2011 年 3 月 11 日)を思い出さずには  
られません。しかし、人間というのは時間が  
たつとどんどん記憶が風化していき、大事な事  
を忘れてしまうものです。「天災は忘れた頃に  
やってくる」という寺田寅彦の言葉は、それを  
戒める大事な言葉です。

寺田寅彦(1878~  
1935)は、明治 11 年  
に東京で生まれた物  
理学者・地球物理学  
者です。寅彦のこの  
言葉は、今村明恒(関  
東大震災を予言した



地震学者)の著書の中 寺田寅彦(昔の切手)↑  
に寺田寅彦の言葉として紹介されています。

寺田寅彦は、東京大学入学後、物理学を研究  
し、また、夏目漱石や正岡子規などの文化人と  
も活発に交流しました。その関係で、物理学者  
でありながら著書もたくさん残しています。ま  
た、ヴェゲナーの大陸移動説を水飴やうどん粉  
などの身近な素材で実験したことも有名です。

関東大震災の直後、現地に入り、特に火災の  
状況をくまなく調査し、「大地震発生への予測は  
困難だから、それが起こったときに被害を小さ  
くする防災対策が重要だ」という考えにたどり  
着きました。また、彼の随筆集の中に以下のよ  
うな文章がありますが、その意味をしっかりと考  
えたいものです。

「人間は何度同じ災害にあっても決して利口  
にならぬものであることは歴史が証明する。東  
京市民と江戸町人と比べると、少なくとも火事  
に対してはむしろ今のほうがだいぶ退歩してい  
る。そうして、昔と同等以上の愚を繰り返して  
いるのである。」

